

特集 3

パソコン操作を自動化しよう

パソコンを使っているときに、いつも行う同じ手順の作業は面倒に感じがち。こうした作業をパソコンに任せる「自動化」の方法を紹介する。

田中 雄二＝ライター

毎日使う文書やアプリを一発で開く

●面倒なファイル操作やデータ入力を自動化して楽に



図1 パソコンやスマホでの操作の中には、単純操作の繰り返しや、手順が多いなどの理由で、面倒と思うケースがよくある。そんなときは、「自動化」すればよい。今回は、図の4つの作業を例に、自動化のワザを紹介しよう

●いつも使うファイルやアプリをまとめて開く

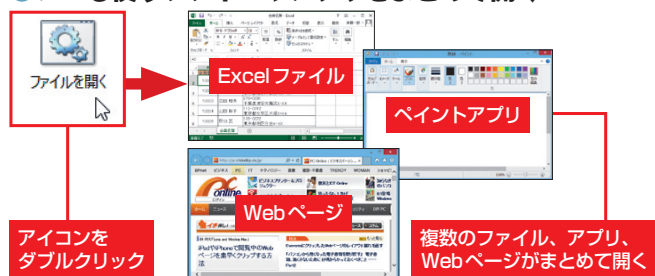


図2 いつも利用するファイルやアプリを、いちいち1つずつ開くのは面倒だ。そこで、アイコンをダブルクリックするだけで、複数のファイル、アプリ、Webページを一気に開くワザを使おう

●「バッチファイル」を作成する

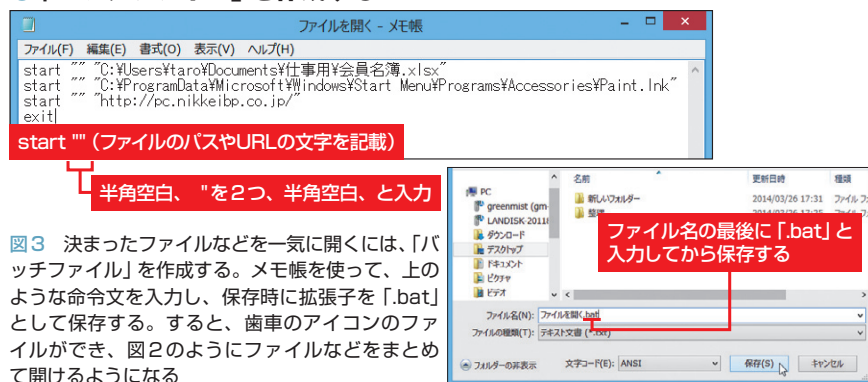


図3 決まったファイルなどを一気に開くには、「バッチファイル」を作成する。メモ帳を使って、上のような命令文を入力し、保存時に拡張子を「.bat」として保存する。すると、歯車のアイコンのファイルができ、図2のようにファイルなどをまとめて開けるようになる

必要だとは分かっているもついつい後回しにしてしまうバックアップ、覚えるのも入力するのも面倒なパスワード管理。こういった面倒な作業は、できるだけ「自動化」しよう。作業効率が格段に向上する。

この特集では、図1の4つの作業を例に、自動化する方法を紹介する。

いつものファイルをすぐ開く

パソコンで作業する際は、決まったアプリケーション（以下、アプリ）やファイルを使うことが多い。もっと作業を楽にするには、いつも使うのアプリやファイルをまとめて一気に開きたいものだ。

それには、「バッチファイル」を活用するとよい。これは、Windowsの命令（コマンド）を記載した一種のプログラム。開きたいアプリ、ファイル、WebサイトのURLなどを記載しておけば、バッチファイルのアイコンをダブルクリックするだけで、まとめて開けるようになる（図2）。

バッチファイルを作るには、Windows付属の「メモ帳」アプリで、命令を書く。アプリやファイルを開くには「Start」命令を使う。書き方は、図3の通り。これを開きたいア

アプリやファイルの分だけ書いて、最後に「exit」(終了)と書く。

あとは、バッチファイルを表す「.bat」という拡張子を、ファイル名の終わりに付けて保存すれば出来上がりだ。なおバッチファイルを編集するには、アイコンを右クリックして、メニューから「編集」を選ぶ。

隠しメニューでパスを取得

バッチファイルを作成するには、ファイルの保存場所を示す「パス」を指定する。パスとは、最初に「C:」などのドライブ番号を書き、間に「\」を挟んで、開くフォルダーを順に並べ、最後に「ファイル名」と「拡張子」を書く。今回のバッチファイルで使うには、パスの前と後ろに「"」も書く必要がある。

パスの手入力は面倒だが、Windows 7以降なら、隠しメニューを使って簡単に取得できる(図4)。

アプリの場合は、Windows 8ならスタート画面からショートカットをすぐに見つけられるので、そのパスを取得する(図5)。Windows 7の場合は、スタートメニューの「すべてのプログラム」のアプリのアイコンを右クリックし、パスを取得しよう。Webページは、ブラウザーのアドレスバーのURLをコピーすればよい(図6)。

なおWindows 7では、「すべてのプログラム」内にある「スタートアップ」フォルダーに、アプリやファイルのショートカットを入れておくと、起動時にまとめて開ける。Windows 8でも、実はスタートアップフォルダーがあるので、必要なら活用しよう(図7、図8)。

●隠しメニューでパスを簡単に取得

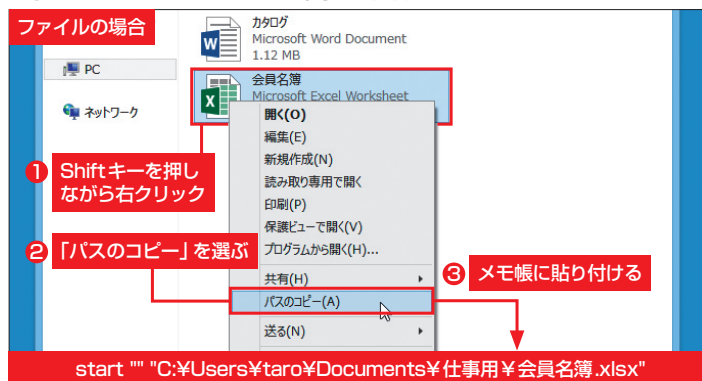


図4 開く対象となるファイルを「Shift」キーを押しながら右クリックしよう。すると、隠しメニューの「パスのコピー」(Windows 7は「パスとしてコピー」)が表示されるので、それを選ぶ。あとは、メモ帳に貼り付ければよい

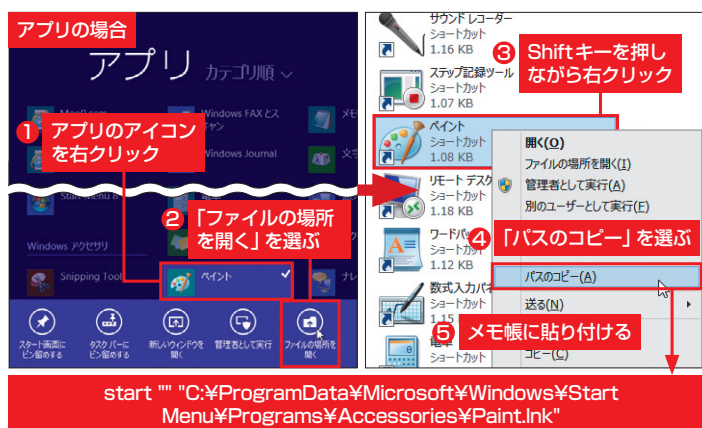


図5 アプリの場合は、スタート画面からアプリのファイルの場所を開く(左)。すると、アプリのショートカットが現れる。あとはファイルの場合と同様に、「Shift」キーを押しながら右クリックして「パスのコピー」を選び、メモ帳に貼り付ける



図6 Webページの場合は、ブラウザーのアドレスバーにあるURL全体をコピーし、メモ帳に貼り付ける。最後に、URLの両端を「"」で囲む

●「スタートアップ」で起動時に開く

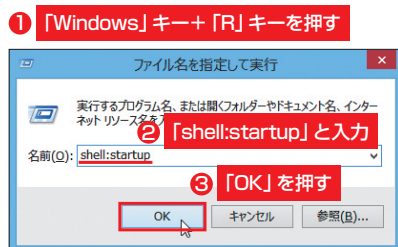


図7 「Windows」キーを押しながら「R」キーを押すと、「ファイル名を指定して実行」画面が表示される。そこに「shell:startup」と入力し、「OK」をクリックすると、「スタートアップ」フォルダーが開く

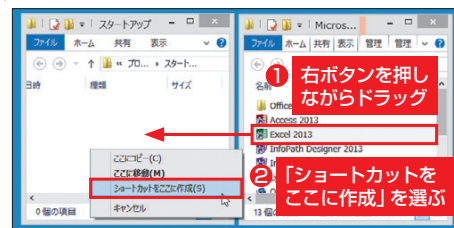


図8 「スタートアップ」フォルダーにファイルやアプリのショートカットを入れると、起動時に開くようになる。ショートカットは、マウスの右ボタンを押しながらドラッグして、ボタンを放したときに表示されるメニューで「ショートカットをここに作成」を選ぶと作れる

写真や動画のコピーを自動化する

●パソコンにつなぐだけでコピーを開始



図1 USBメモリーに保存した写真やスマホで撮影した写真などを、パソコンにコピーして取り込みたいことがよくある。そのとき、いちいち写真の入ったフォルダーを探してコピーするのは面倒。簡単にコピーするワザを利用しよう

●「自動再生」機能に取り込みアプリを登録

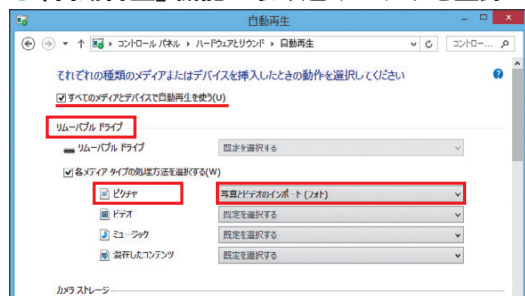


図2 「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」→「自動再生」とたどって、自動再生の設定画面を表示。「～自動再生を使う」にチェックを入れた後、対象のメディアごとに、動作を指定する。例えばUSBメモリーを挿したときに写真を取り込みたいときは、「リムーバブルドライブ」の「ピクチャ」で、取り込みアプリを指定する。Windows8なら、標準搭載の「フォト」アプリが使える



図3 図2の設定後に画像入りのUSBメモリーをパソコンにセットすると、自動的に「フォト」アプリの取り込み画面が表示される。「インポート」ボタンをクリックすると、取り込める

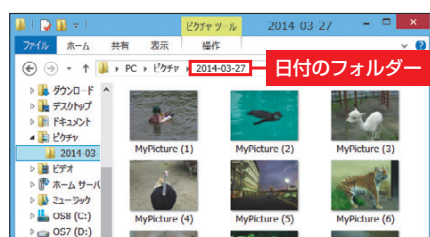


図4 取り込んだ写真は、「ピクチャ」フォルダーに日付が付いたフォルダーに保存される



図5 次回にUSBメモリーをセットしたときは、新規の写真のみが選択されてコピーできる

デジカメやスマートフォンで撮影した写真・動画を、パソコンにコピーして管理している人は多いだろう。その際に、デジカメやスマートフォンをパソコンにつないで開き、パソコンにコピーするのは面倒だ。そこで、デジカメやスマートフォン、USBメモリーやメモリーカードなどに保存した写真を、USB端子に接続するだけで自動コピーする機能を使いこなそう(図1)。

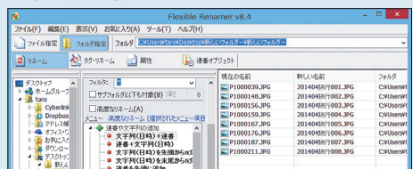
自動再生機能を利用する

Windowsには、デジカメやUSBメモリーなどを接続したときに、自動で各種の操作を行うための「自動再生」機能がある。写真のコピーも、これを利用すればよい。

設定するには、コントロールパネルをたどって自動再生の設定画面を開き、対象機器ごとに一覧から動作を指定する(図2)。写真や動画の取り込みが可能なアプリをインストールしてあれば、一覧から「写真のインポート」といった取り込み用の動作を選べる。

取り込み用のアプリをインストールしていない場合でも、Windows 8なら付属の「フォト」アプリが自動取り込みに対応しているので利用しよう。フォトの場合、2回目以降は、

●連番を付けるなどファイル名を一括変更



図A 「Flexible Renamer」では、フォルダー内のファイルの名前をまとめて変更できる。「文字列+連番」などのパターンを指定して「リネーム」を実行するだけでよい



Flexible Renamer 開発：Naru氏
入手先：<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/util/se131133.html> 無料

写真を分かりやすく管理するには、ファイル名に連番などを付けたいもの。こんなときは、「Flexible Renamer」のように、複数のファイルの名前をまとめて変更できるフリーのアプリを使う

とよい(図A)。同ソフトでは、例えば「文字列+連番」などのパターンを指定するだけで、簡単に連番を付けられる。ファイル名の一部を別の文字に置き換えるなど、高度な名前変更も可能だ。

用語解説

オンライン
ストレージサービス▼

インターネット上のサーバーが用意するディスク領域を、ユーザーがファイル保管用に利用できるサービス。

パソコン操作を自動化しよう



既にパソコン内にある写真は選択から外れるので、新規の写真のみコピーできる(図3~図5)。

クラウド経由でコピーする

スマートフォンのように標準でネットに接続可能な機器なら、いちいちUSBケーブルで接続するのではなく、ネット経由で写真などをパソコンへコピーできれば、さらに手間が掛からない。

このときに便利なのが、「Dropbox」のようなオンラインストレージサービスだ(図6)。

Dropboxでは、スマートフォンで撮影した写真を、自動でネット上のサーバーへコピーする機能がある(図7、図8)。また、パソコンに専用アプリをインストールしておくと、パソコン内のフォルダーと、ネット上のサーバー間で、自動で同期できる。つまり、スマートフォンの写真を、ネット上のサーバーを経由して、パソコン内のフォルダーへ自動コピーできるわけだ。

iTunesの音楽を簡単転送

最後に、音楽についての便利ワザを紹介する。

パソコンで管理している音楽をスマートフォンで聴きたいことは多い。パソコン側では「iTunes」(アップル)を使って音楽を管理している人が多いだろう。スマートフォン側がiPhoneなどであれば話が早いのだが、Androidスマートフォンでも心配は無用だ。「iSyncr」というアプリを使うと、Wi-Fi経由でiTunesの音楽をAndroidスマートフォンへ簡単にコピーできる(図9、図10)。

●クラウド経由で簡単に写真を転送



Dropbox 開発: Dropbox

入手先(PC): <http://www.dropbox.com/> 2GBまで無料

図6 オンラインストレージの「Dropbox」を利用すれば、スマホで撮影した写真や動画を自動でパソコンへ転送できる

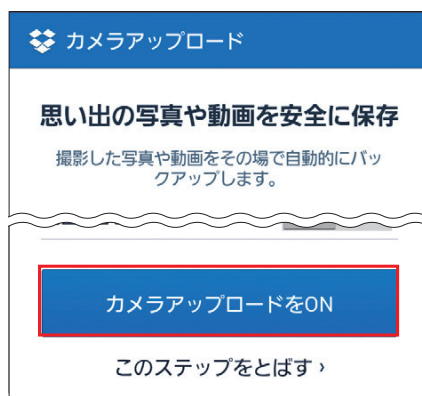


図7 スマートフォンでDropboxアプリを最初に起動すると、「カメラアップロード」機能を使うかどうかを聞かれる。ここで「カメラアップロードをON」をタップして、機能を有効にしよう。これで、撮影した写真が自動でクラウドに転送される

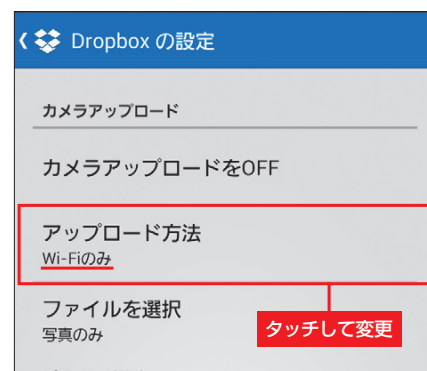


図8 スマホ本体のメニューボタンをタップし、開くメニューで「設定」を選ぶと設定画面が表示される。ここからカメラアップロードの設定が可能だ。通信データ量が気になる場合は、「Wi-Fiのみ」にすると、Wi-Fi接続時だけ自動アップロードを行うようになる

●iTunesの音楽をAndroidスマホへ転送



iSyncr 開発: JRT Studio

入手先(PC): <http://www.jrtstudio.com/> 399円(無料の体験版あり)

図9 パソコンに取り込んだ音楽を「iTunes」で管理することは多い。iPhoneなどなら簡単に音楽を転送できるが、「iSyncr」というアプリを使えば、Androidスマホでも音楽を簡単に転送できる。Wi-Fi経由で転送すれば、手間が掛からない

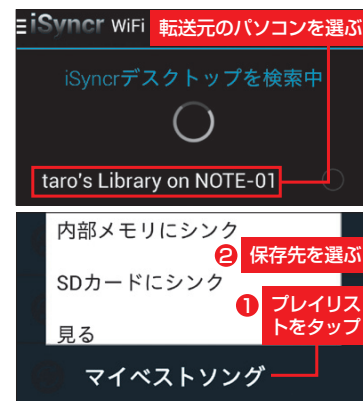


図10 iSyncrは、パソコンとスマホの両方にアプリを入れて利用する。スマホ側のアプリで転送元のパソコンを選択すると(上)、iTunesのプレイリストが表示される。それを選んで同期を実行すると(下)、プレイリスト内の音楽が転送される

面倒なパスワード管理を自動化する

●ブラウザや専用ソフトで保存・管理

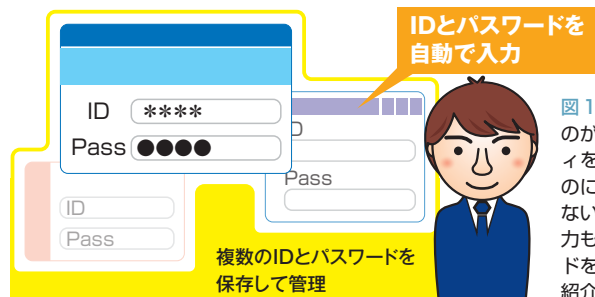


図1 会員制サイトの利用で面倒なのがパスワードの管理。セキュリティを高めるためパスワードは違うものにしたいが、数が多いと覚えられない。複雑な文字のパスワードは入力も面倒だ。そこで、IDとパスワードを記録し、自動で入力する方法を紹介しよう

●Windows 8なら管理は容易

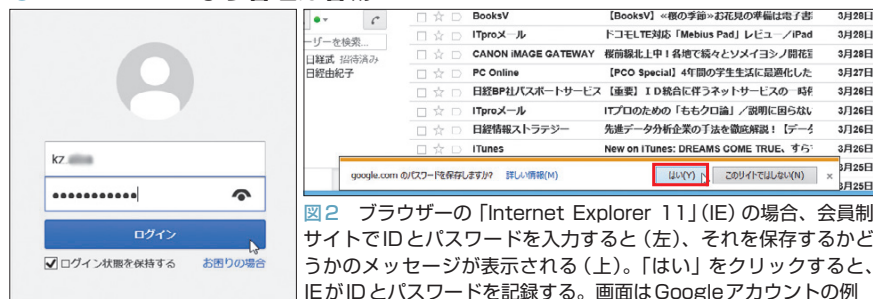


図2 ブラウザーの「Internet Explorer 11」(IE)の場合、会員制サイトでIDとパスワードを入力すると(左)、それを保存するかどうかのメッセージが表示される(上)。「はい」をクリックすると、IEがIDとパスワードを記録する。画面はGoogleアカウントの例



図3 次回以降は、以前に記録したサイトを開くと、自動的にIDとパスワードが入力される。ただし、サイトによってはうまく自動記録できないケースもある

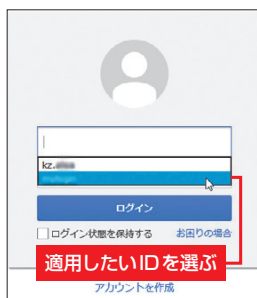


図4 同じサイトに複数のIDとパスワードを登録することもできる。その場合は、ID欄をクリックすると候補が表示される。目的のものを選ぶと、そのIDと対応するパスワードが入力される

●IDとパスワードを管理する

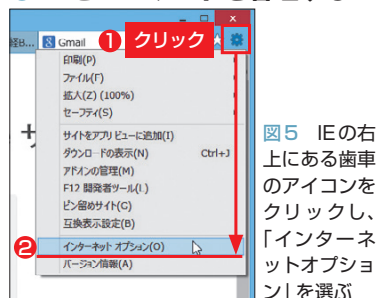


図5 IEの右上にある歯車のアイコンをクリックし、「インターネットオプション」を選ぶ

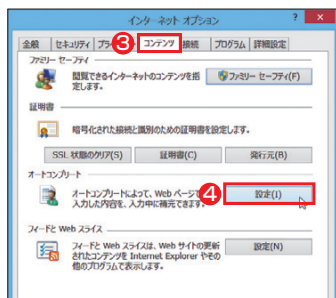


図6 画面の「コンテンツ」タブで「オートコンプリート」項目の「設定」ボタンをクリックする

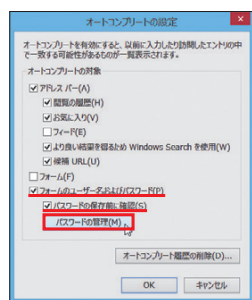


図7 「フォームのユーザー名」と「～保存前に確認」をチェックすると、図2の確認画面が表示され、入力したIDとパスワードを記録できるようになる。Windows 8なら、記録したIDとパスワードの確認までできる。それには、「パスワードの管理」をクリックする

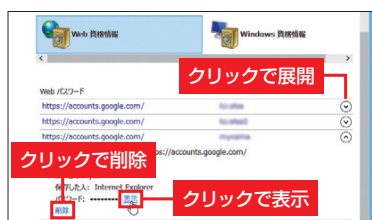


図8 記録したIDの一覧が表示される。右のボタンをクリックして展開し、「表示」をクリックすると、パスワードを表示できる

会員制のWebサイトなどを使う際には、ID(ユーザー名)とパスワードを入力することが多い。安全性を高めるには、各サイトで異なるパスワードを利用し、そのパスワードも英数記号の交ざった複雑なものにするのが理想的だ。とはいえ、会員制サイトが多くなると、複雑なパスワードを覚えるのは大変だし、入力も面倒。そこで、なるべく入力や管理を楽にする方法を知っておこう(図1)。

IEを使ってパスワードを管理

Windows 8に付属するブラウザー「Internet Explorer」(IE)は、パスワードの記録や自動入力の機能が備わっている。まずはこれの利用を検討しよう。

IEを使って会員制サイトのログイン(サインイン)ページを開き、IDとパスワードを入力すると、「パスワードを保存しますか?」というメッセージが出る。「はい」をクリックすると、IDとパスワードが記録される(図2)。次回以降、ログインページを開くと、自動でIDとパスワードが入力される(図3)。ログインページに、複数のIDとパスワードを記録することもできる。その場合は、記録後にID入力欄をクリックすると複数の候補が表示されるので、入力したいものを選ぶ(図4)。

Windows 8なら、保存したIDとパスワードの管理も容易だ。それには、「資格情報マネージャー」の「Web管理情報」を開く(図5～図8)。

ここで、記録したIDとパスワードの削除が可能だ。また、ブラウザーでは「●●●」と表示されるパスワードを、表示することもできる。

用語解説

資格情報マネージャー▼

Webサイトやコンピューターへのログインに使うユーザー名やパスワードなどを管理する、Windowsの管理画面。

その際には、Windowsのサインインパスワードの入力が必要になる。別のパソコンで会員制サイトを使いたいが、パスワードを忘れてしまった場合などに役立つ。

IDとパスワードの削除は、IEから直接行うこともできる。IDの入力欄を空白にした状態でクリックすると、IDの一覧が表示されるので、削除したいものを選んで[Delete]キーを押せばよい(図9)。

便利なフリーソフトを活用

このほか、IDとパスワードの管理に役立つフリーソフトを紹介しよう。

前述のように、Windows 8ではIEに記録したパスワードを表示することが可能だが、Windows 7では見ることができない。こうした場合は、「PasswordEye」のようなパスワードを表示するフリーソフトを使う(図10)。全てのサイトで表示できるわけではないが、役に立つ。

またIEの場合、WebサイトによってはうまくIDとパスワードを記録できないケースもある。そんな場合は、「ID Manager」といった管理用フリーソフトを使う手もある。

ID Managerでは、パスワードを含むデータファイルが暗号化されており、勝手に見ることはできない。また事前に設定したパスワードを起動時に入力しないと利用できないようになっているので、安心だ(図11、図12)。ID Managerでは、各サイトのIDとパスワードをデータベースのように管理できる(図13)。登録したIDとパスワードは、ボタン一つでログインページの入力欄に貼り付けできる(図14)。

● IDとパスワードをブラウザから直接削除する

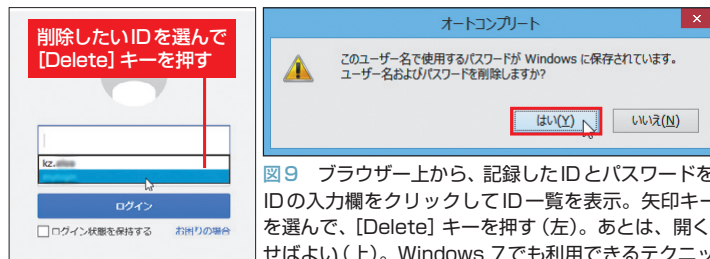


図9 ブラウザー上から、記録したIDとパスワードを直接削除もできる。IDの入力欄をクリックしてID一覧を表示。矢印キーで削除したいものを選んで、[Delete]キーを押す(左)。あとは、開く画面で「はい」を押せばよい(上)。Windows 7でも利用できるテクニックだ

● Windows 7には隠れたパスワードを表示するフリーソフト

PasswordEye 作者：Tatsuya Bunei氏
入手先：<http://www.vector.co.jp/soft/win95/util/se314652.html> 無料

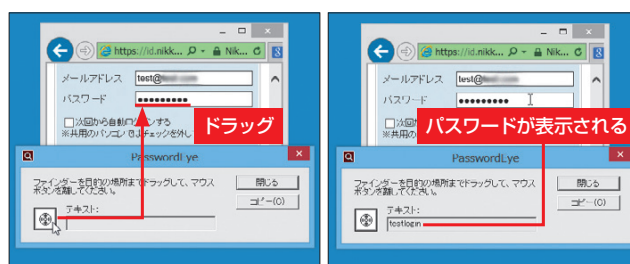


図10 Windows 7では図8のようにパスワードを表示できないため、専用ソフトを使う。PasswordEyeを起動し、アイコン部分をクリックすると、その部分のパスワードが表示される(右)

● フリーソフトでパスワードを分かりやすく管理

ID Manager 作者：WoodenSoldier氏
入手先：<http://www.woodensoldier.info/> 無料

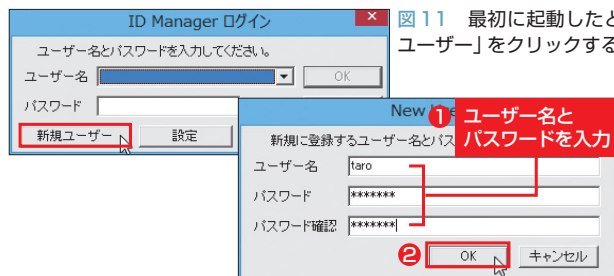


図11 最初に起動したときは、ログイン画面で「新規ユーザー」をクリックする

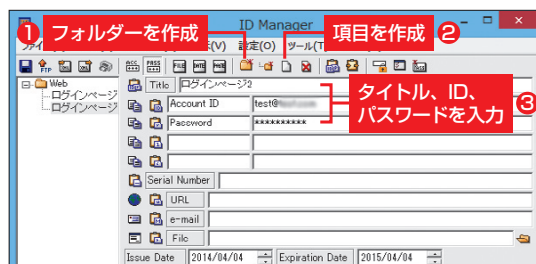


図12 ユーザー名とパスワードを入力して「OK」を押す。次回以降は、このユーザー名を選び、正しいパスワードを入力しないと、ID Managerは利用できない。このパスワードだけは暗記しておく

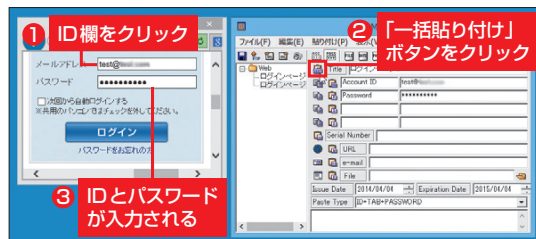


図13 まずフォルダーのアイコンをクリックしてフォルダーを作成。次に白紙のアイコンをクリックして項目を作成し、タイトル、ID、パスワードを入力する。このように、データベース風にIDとパスワードを入力して管理できる

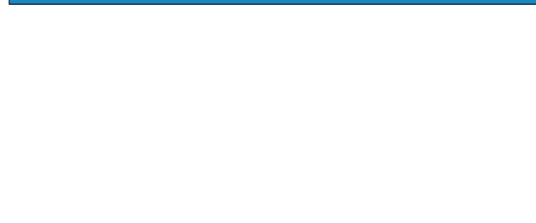


図14 実際にIDとパスワードを入力するには、ID欄をクリックしてから、ID Managerの「一括貼り付け」ボタンをクリックする。環境によってはうまく貼り付けができないこともあるが、その場合は、作者のWebページに対処法がいくつか記載されているので、参考にしよう

大切なファイルを自動でバックアップ

●バックアップは定期的に自動実行



図1 パソコンの故障など万が一に備え、大切な文書や写真などのファイルは、外付けハードディスクなどにバックアップしておきたい。しかし、ファイルを新規に作成したり編集した際に、いちいちコピーするのは面倒だ。そこで、ファイルを自動でバックアップするワザを紹介しよう

●Windows 8は「ファイルの履歴」で簡単バックアップ

- ・空き時間を利用し、定期的に自動バックアップ
- ・対象は「ライブラリ」「デスクトップ」「お気に入り」「連絡先」
- ・ファイルの複数のバージョンを保管できる
- ・バックアップしたファイルをプレビューできる
- ・バックアップ先が未接続の場合は、HDD内にバックアップデータを作成し、接続時にコピーを実行

図2 Windowsには従来からバックアップ機能はあるものの、使い方がいまひとつだった。Windows 8の新機能「ファイルの履歴」は、簡単に操作できる使い勝手の良いバックアップ機能になっている

Windows 8なら簡単

Windowsには、標準でバックアップの機能が付属しているものの、今までは使い勝手がいまひとつだった。ところが、Windows 8から新たに搭載された「ファイルの履歴」というバックアップ機能なら、実に簡単。利用しない手はない(図2)。

ファイルの履歴を有効にすると、定期的にパソコンの空き時間を利用して、ファイルを自動バックアップできる。初期設定では、「ライブラリ」「デスクトップ」などがバックアップ対象だが、追加・変更も可能だ。名前の通り、ファイルの複数のバージョンを保管しており、ファイルの内容をプレビューしながら復元できる。

ノートパソコンでの利用も考慮されており、バックアップ先のドライブが未接続の場合は、内蔵ドライブ内にバックアップ用データを作成しておき、ドライブが接続されたら、コピーするようになっている。

設定は実に簡単。まずはパソコンに外付けハードディスクなどを接続する。バックアップ先は、OSの入ったドライブ以外を指定する。

次にコントロールパネルをたどってファイルの履歴の設定画面を開き、「オンにする」をクリックする。たっ

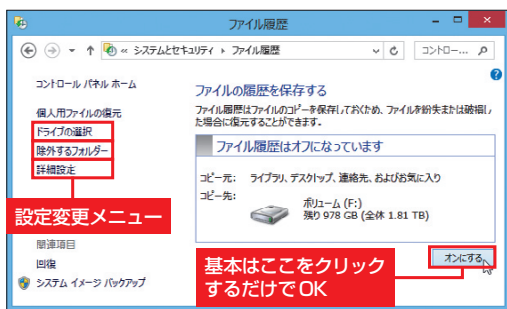


図3 コントロールパネルを開き、「システムとセキュリティ」→「ファイル履歴」を選べば、設定画面が表示される。バックアップ先のドライブが表示されるので、問題なければ「オンにする」をクリックする。これだけで設定は完了だ

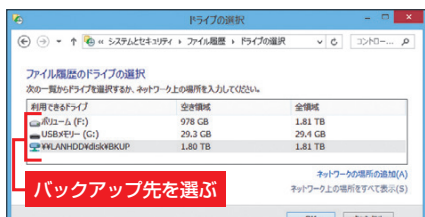


図4 バックアップ先を別のドライブにしたい場合は、図3の画面で「ドライブの選択」を選び、表示される画面で指定する。「ネットワークの場所の追加」を選ぶと、LAN上のサーバー（LAN型HDDなど）も追加できる



図5 「ビデオ」のように容量の大きなファイルを含むフォルダーをバックアップの対象から外したい場合は、図3の画面で「除外するフォルダー」をクリック。開く図の画面で「追加」を押し、除外するフォルダーを指定する

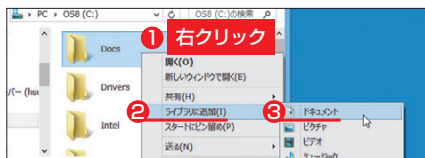


図6 初期設定以外のフォルダーをバックアップしたい場合は、ライブラリに追加する。フォルダーを右クリックし、開くメニューで「ライブラリに追加」から「ドキュメント」などを選ぶ

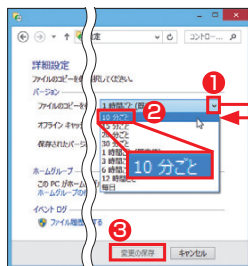


図7 図3で「詳細設定」を選ぶと、バックアップを実行する間隔などを指定できる。初期設定は1時間ごとだが、10分ごとなどに変更できる

ライブラリ▼

複数フォルダーに分散されて保存されているファイルが1つのフォルダーにあるかのように表示できるWindows 7以降が備える機能。

用語解説

ただこれだけで設定は完了だ(図3)。

初期設定では、前述の「ライブラリ」などのフォルダー内のファイルが、1時間おきに、指定したドライブにコピーされる。コピーされるのは新規・更新されたファイルのみなので、2回目以降はすぐに済む。

必要があれば、自分の環境に合わせて設定を変更しよう。図3画面の左にあるメニューをクリックすると、細かい設定ができる。「ドライブの選択」は、バックアップ先のドライブを変更する(図4)。「除外するフォルダー」では、バックアップの不要なフォルダーを指定できる(図5)。

バックアップ対象のフォルダーを追加する場合は、「ライブラリ」にそのフォルダーを追加する(図6)。初期設定のバックアップ頻度は1時間おきだが、これを10分おきなどに変更したい場合は、「詳細設定」メニューで設定する(図7)。

ファイルを復元するには、フォルダーを開いて、リボンの「ホーム」タブにある「履歴」ボタンをクリックする。すると、以前にバックアップしたファイルの一覧が表示されるので、復元したいものを選択して「復元」ボタンをクリックすればよい(図8、図9)。

別のバージョンのファイルを復元したい場合は、「前」「次」ボタンをクリックして、世代を変更する。オフィスファイルなどは、ファイルの内容(プレビュー)を見ながら、復元したいバージョンを探せる(図10)。

なおWindows 7の場合は、「BunBackup」のように、簡単に自動バックアップできるフリーソフトを使うとよい(図11～図13)。

●削除したファイルを復元する



図8 削除したファイルを含んでいたフォルダーを開き、「ホーム」タブの「履歴」をクリックする

図9 以前にバックアップした内容が表示されるので、復元したいファイルを選択して復元用のボタンをクリックする

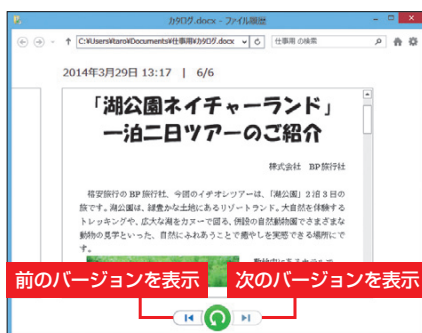


図10 バックアップしたファイルに複数のバージョンがあるときは、「前のバージョン」「次のバージョン」ボタンをクリックして、切り替えられる。プレビューを見ながら内容を確認し、復元したいバージョンで復元ボタンを押す



●Windows 7はフリーソフトで



BunBackup 作者：Nagatsuki氏
入手先：<http://homepage3.nifty.com/nagatsuki/> 無料

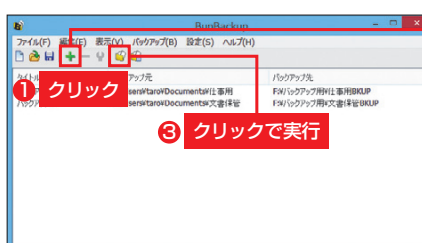


図11 メイン画面の「+」ボタンをクリックし、バックアップ元のフォルダーとバックアップ先のフォルダーを登録。あとは「バックアップ開始」ボタンをクリックすればよい

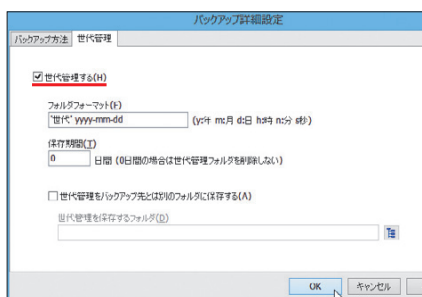
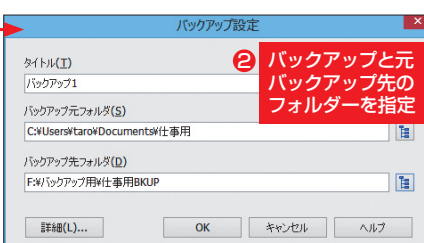


図12 バージョン管理も可能。まず「設定」→「機能表示設定」で「世代管理」をチェック。次に図11右の画面で「詳細」を押すと、世代管理の設定画面が表示されるので、「世代管理する」をチェックする

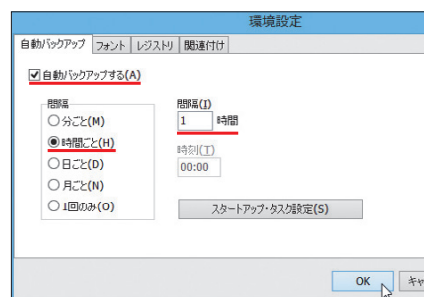


図13 同様に「機能表示設定」で「自動バックアップ」をチェックすると、「設定」メニューの「環境設定」に「自動バックアップ」の設定項目が現れる。「自動バックアップする」をチェックし、頻度を設定すると定期的にバックアップされる

